

あけましておめでとうございます。謹んで新春のごあいさつを申し上げます。
 新年にあたり皆様から旧年中に賜ったご支援、ご協力とご指導に対し、厚くお礼を申し上げます。
 本年も倍旧のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は当社にとっては、干支である寅に相応しく動きの激しい、またチャレンジングの一年でございました。

皆様が集めて下さった産業廃棄物を少しでも有効活用するために、産廃選別ライン・新破砕機を導入し、再資源化量を増やすことで、最終埋立量を減らす取り組みをいたしました。

また、皆様に少しでもお役に立つような身の回りの業界情報をお届けするために、この「羅針盤」を発行いたしました。

身近なリサイクルパートナーとして東港金属をご利用いただけますように本年も、こんな基本情報を知っていただくお役に立つというようなニュースに焦点を当てて「羅針盤」をお届けいたします。
 つたない情報誌ですが、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。



東港金属株式会社
 東京都大田区京浜島2-20-4
 電話 03-3790-1751
 URL <http://www.tokometal.co.jp>

(見学受付)
 電話03-3790-1751 又は 各営業担当

☆羅針盤

鉄・非鉄スクラップ・市況からの1月予測

営業部 Y の考察

- 鉄スクラップ** → 考察) 鉄に関しては、12月中旬に東鉄価格が、5回上値修正がありました。28日時点で37,500/トン1月も、物不足、鉄鉱石の値上がりで国際的に上伸基調のため、国内相場は、引続き上がるかと予想します。
- 銅** → 考察) LME価格は12月8,300/ドル→9,360/ドルと上昇しましたが、LMEの在庫増、中国の金利上昇も考えますと、上げを期待しての高買いは危険と思われる。
- アルミ** → 考察) 12月から多少ですが高値の方向を示しています。しばらくは緩やかな上昇があるのではと思います。
- プラスチック** → 考察) 原油の値上がり、円安から上昇気配でしたが、中国人民銀行の金利引き上げでエネルギー需要が落ち込み、原油価格が下落しました。ただ、まだまだプラスチックは必要であるため、現状価格の横ばいが続くかと予想しています。

12月予測の自己評価

鉄スクラップ	×	アルミ	×
銅	×	プラスチック	△

☆羅針盤

サーマルリサイクルの現状

サーマルリサイクル (Thermal Recycle、熱回収) とは、廃棄物を単に焼却処理せず、焼却の際に発生する熱エネルギーを回収・利用することです。一般には3Rと言われているリデュース、リユース、リサイクルの中で、リサイクルの一分野として位置づけられる場合が多いようです。この他のリサイクルとしてはマテリアルリサイクルやケミカルリサイクル等があげられます。

サーマルリサイクルはリユースやマテリアル・ケミカルリサイクルが困難となった廃棄物に対して行われます。しかし、実はサーマルリサイクルというのは和製英語であり、欧米ではサーマルリカバリー (Thermal Recovery) と呼びます。

地球温暖化の観点から二酸化炭素を排出するサーマルリサイクルより、埋め立ての方が環境に優しいという考えもありますが、サーマルリサイクル時に発生する二酸化炭素量はサーマルリサイクルを行うことにより削減された原油が発生する二酸化炭素量と同等程度は相殺できます。日本においては、さらなる熱効率の向上により、完全に相殺できるように求められております。また埋め立てた場合、プラスチックは地中で分解されないため、埋立地が際限なく必要となり循環型社会を形成できない問題があります。

(最近のサーマルリサイクル事情・焼却処理技術の高度化)

我が国では従来より、公衆衛生の観点から廃棄物の焼却処理に取り組んでおり、徹底的なダイオキシン類対策の実施をしていることとの相乗効果もあって、廃棄物の中間処理技術の面で大きな発展がみられました。

例えば、焼却温度の管理徹底による排出ガス対策技術や、焼却に伴って発生する熱を回収して発電等に有効活用する技術が実用化されております。最近では、熱分解ガス化方式の焼却炉も実用化されております。

熱分解ガス化方式は、焼却・熱回収技術の最先端技術であり、品質の良い金属の回収が可能であること、排ガス量が少ないため排ガス処理設備をコンパクトにできることや残渣 (スラグ) の減量効果が大いなどの点で優れた技術の一つです。また、残渣も路盤材としての利用が可能となり、最終処分場の延命にも大きく貢献するといった特長もあります。

このような我が国の焼却処理技術等の環境技術は、中国などの東アジア諸国にも高く評価されており、海外での廃棄物排出量が増加する中で、海外での需要が増加しております。

具体的なサーマルリサイクル施設としては、各社がそれぞれの設備の特徴を活かした施設を導入しております。弊社からもその中の数社に搬入させていただいております。



蔡遊記 (隔月連載 4)

今年の11月に中国大陸の北京と天津へ出張いたしました。観光では香港や上海には度々行きましたが、ビジネスとしては初めての中国大陸行きでした。

今回はこの出張のときに感じた中国大陸と台湾や日本との違いについてお話ししたいと思います。

まずは、観光の時には余り気にならなかったのですが、ビジネス相手である現地の方に食事を招待された時の驚きについてお話をいたします。中国大陸での食事作法は私の育った台湾とも違い、もちろん日本とは違うものでした。

その最も大きな違いと私が思ったことは、次から次に料理が出てくることとその量の多かったこと。私から見ると客の人数の3倍分はあったと思いました。そして客はその料理を必ず少し残すこと、テーブルの上を料理で散らかすことでした。

中国大陸では、お腹がいっぱいになるまでご接待をすることが良いとされているので、主人は多くの料理を出し、客は十分満足をしたということを表現するために、どの料理も少し残すとのことでした。テーブルの上を汚すことは、「大変おいしくいただきました」という意味になるそうです。

私の知っている台湾では、食べ残しは美味しくなかったから残したと思われるので、出された料理は残さずに食べるように教わりました。日本と同じですね。

また、お酒の飲み方についても、中国大陸の「乾杯」は文字の通り杯を乾かすという意味です。一気飲みで、飲んだ後には杯を逆さにして飲み干したことを相手に見せねばなりません。これに対して「随意」というのはマイペースで飲むということですが、私は「乾杯」をしてしまい大変な目にありました。中国大陸での「乾杯」にはご注意ください。

次に、中国大陸の大気汚染について感じたことを簡単にお話します。中国大陸の空気は汚れているといわれており、観光で行ったときも薄々は良くないと思っておりました。今回は北京と天津という大都市なので対策されているであろうと期待して訪問しましたが、やはり(文字で表すことは難しいのですが)日本や台湾と比べると相当に悪いと感じました。インターネット等の情報では、大気汚染対策が中国大陸でのこれからの大きなテーマであると伝えており、このことを私の身体も実感しながら成田行きの飛行機に乗りました。